

鉄砲塚遺跡発掘調査報告 — 度会郡玉城町勝田 —

2021（令和3）年2月

三重県埋蔵文化財センター

例　　言

1. 本書は、令和元年度に実施した令和元年度高度水利機能確保基盤整備事業（宮川左岸地区）に伴う鉄砲塹遺跡の工事立会による埋蔵文化財調査報告書である。
2. 工事立会は、三重県教育委員会が三重県農林水産部から依頼を受けて実施した。
3. 工事立会の体制は次のとおりである。

立会担当	三重県埋蔵文化財センター　調査研究1課　角正芳浩　元座範子
整理担当	三重県埋蔵文化財センター　調査研究1課　元座範子
立会期間	令和元年9月17日から令和元年9月20日
立会面積	鉄砲塹遺跡 46.2 m ²
4. 当報告書の作成事務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究1課が担当し、本書の執筆・編集・写真撮影は元座が行った。
5. 遺跡位置図は、三重県市町総合事務組合の承認を得て、同組合所管の「2017三重県共有デジタル地図（数値形図2500）（道路縁1000）」を使用し、調整したものである。（承認番号：令和2年4月1日付三総合地第2号）
6. 調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターにて保管している。

凡　　例

1. 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1:25,000 数値地図「伊勢」「国東山」（平成20年10月発行）、三重県共有デジタル図の1:2,500 地形図「06PF641番」「06PF642番」を用いた。
2. 本書で用いた座標は世界測地系に基づくものである。方位は第VI座標系の座標北で示した。
3. 標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。
4. 本書で用いる遺構略号は以下のとおりである。
 - SD：構
5. 土色の表記は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1967年初版）に掲めた。遺物観察表における土器の色調表記もこれに従う。
6. 遺物実測図の縮尺は1:4とした。
7. 註は各章の文末に付し、参考文献も註に記した。
8. 遺物観察表の凡例は以下のとおりである。
 - 実測番号は当センター所蔵の遺物実測番号である。
 - 色調は標準土色帖の色名を記す。
 - 胎土の緻密さは、粗・やや粗・やや密・密の4段階である。
 - 焼成状態は、不良・やや不良・やや良・良の4段階である。
9. 写真図版中の遺物に付した番号は、各遺物の報告番号と対応する。遺物写真は縮尺不同である。

目 次

例言・凡例	i
目 次	ii
I 前 言	1
1 調査に至る経緯	
2 調査の方法	
3 文化財保護法にかかる諸手続き	
II 位置と環境	2
1 地理的環境	
2 歴史的環境	
III 基本層序と遺構	4
1 基本層序	
2 遺構	
IV 遺物	7
V 結語	8

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	3
第2図 調査区位置図	3
第3図 調査区平面図	5
第4図 調査区土層図	6
第5図 出土遺物実測図	7

表 目 次

第1表 遺構一覧表	7
第2表 出土遺物観察表	7

写 真 図 版 目 次

写真図版1 調査前	9
北トレンチ北側・遺構	9
写真図版2 北トレンチ中央・遺構	10
北トレンチ南側・遺構	10
写真図版3 南トレンチ全景・遺構	11
遺構 SD 1	11
出土遺物	11
出土遺物	11

I 前 言

1 調査に至る経過

(1) 調査に至る経緯

本書で報告する調査は、令和元年度高度水利機能確保基盤整備事業(宮川左岸地区)に伴って実施した、埋蔵文化財の記録保存にかかるものである。当事業の主体は三重県農林水産部、実施機関は伊勢農林水産事務所農村基盤室である。

平成30年9月18日に行った確認調査の結果から伊勢農林水産事務所と協議を行い、伊勢農林水産事務所より労務提供を受け、工事立会による記録保存調査を行った。

2 調査の方法

(1) 調査の経過

調査は、令和元年9月17日から9月20日に実施した。以下、その経過を調査日誌から抄録する。

【調査日誌(抄)】

〔令和元(2019)年〕

9月 17日 調査開始。調査区設定。表土掘削。
遺構掘削。写真撮影。
遺構実測図作成。

18日 雨天により休工。

19日 表土掘削。遺構掘削。写真撮影。
遺構実測図作成。

20日 表土掘削。SD 1掘削。写真撮影。
遺構実測図作成。調査終了。

(2) 調査の概要

調査は、工事立会として実施し、遺跡区北から開始した。調査区内には、マンホールがあつたため調査することができず、調査はマンホールを挟んだ南北2ヶ所のトレンチ調査として実施した。

表土及び包含層は重機を用いて掘削を行い、遺構検出・遺構掘削は人力で行った。

遺構実測図は、全体平面図及び土層図を1/20で、当センター職員による手測りで作成した。なお、実

測に用いた基準点は国土座標をもとに設定した。

写真的撮影には、一眼レフデジタルカメラを用いた。遺構写真是、ニコンD3300で撮影し、補助的にコンパクトデジタルカメラを用いた。遺物写真是、ニコンD800 Eを用いた。

なお、夜間は交通の往来を確保する必要があったため、毎日埋戻しを行った。そのため、トレンチ全体を通じて写真撮影は実施できなかった。

3 文化財保護法にかかる諸手続き

調査の結果、鉄砲塹遺跡の範囲が北西へ広がることが判明したため、三重県教育委員会は玉城町教育委員会と協議のうえ、鉄砲塹遺跡の範囲を変更する手続きをとった。なお、三重県教育委員会が遺跡の存在について現認していることから、文化財保護法第95条に基づく埋蔵文化財包蔵地の周知の手続きを行った。

①文化財保護法第94条に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項

「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」

三重県教育委員会教育長あて三重県知事通知

・平成30年8月3日付け、勢農第3207号

②文化財保護法第100条第2項

「埋蔵文化財の発見・認定通知」

(伊勢警察署長あて三重県教育委員会教育長通知)

・令和元年10月28日付 教委12-4410号

③周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更

「周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更」

三重県教育委員会教育長あて三重県埋蔵文化財センター所長通知

・令和元年10月21日付 教埋第225号

II 位置と環境

1 地理的環境

鉄砲塚遺跡(1)は、度会郡玉城町勝田に所在する。玉城町は伊勢平野の南部に位置し、北に明和町、東に伊勢市、南に度会町、西に多気町と境界を接する。その中で勝田は国東山脈からのびる低い丘陵地にあり、浜塚山との間に勝田大池の谷から流れ続いた泥土が堆積した地に田が拓けている場所である^①。鉄砲塚遺跡は勝田大池の北東約900mの場所にある溜池の押野池の東側の平地に位置する。

2 歴史的環境

旧石器時代 そうれ場遺跡(6)では、ナイフ形石器や削器、細石刃核が採集されている。石材は頁岩製が1点ある以外はすべてチャート製である^②。上地山遺跡(18)では、旧石器時代の構造は焼石を含む砾群1ヶ所を認め、関連遺物は濃密な分布が確認されており、石器・石核・剥片など総数778点を数える^③。下之垣内遺跡(16)では、ナイフ形石器や縦長剥片などが^④、寺起遺跡(12)ではサヌカイト製大型剥片をはじめ、剥片が多数見つかっている^⑤。上久保遺跡(9)では石鏃、剥片などが、浜塚A遺跡(8)では搔器、剥片が確認されている^⑥。

縄文時代 東村遺跡(13)では、後期初頭・中津式併行の深鉢片が確認されている^⑦。狼谷遺跡(20)では後期のス線のある土器片、石器、剥片が確認されている^⑧。また、狼谷遺跡の北東にある明豆遺跡(21)は町内の代表的な縄文遺跡で規模も大きい。中・後期の土器、石器（石鏃・石匙・搔器・石錐・石棒ほかに有溝砥石、礫器など）、剥片が採集されている^⑨。

弥生時代 上ノ山遺跡(2)では、前期の堅穴住居1棟と、中期の方形周溝墓2基が検出されている。遺物は前期でも新段階の壺形土器や甕形土器が出土している。また方形周溝墓の1基からは中期後半の細頸壺が出土している^⑩。上地山遺跡(18)では、堅穴住居4棟や土坑が発見された。甕や細頸壺、広口壺などが出土し、中期後半に位置づけられている。石器は大型蛤刃石斧、石包丁の小片がある^⑪。前記

の上ノ山遺跡や同町内の波瀬B遺跡でも集落があることが推測され、弥生時代後期の大規模な集落形成の基盤をなしていたものと考えられている^⑫。

古墳時代 鉄砲塚遺跡の南東側の丘陵上にある鉄砲塚B古墳群(14)は8基確認されていたが、現在は消滅している。1号墳は方墳で、残りはすべて円墳で構成されていた。遺物は須恵器の壺や蓋、平瓶、須恵器片が出土している。ほとんどが7世紀前半と考えられている^⑬。鉄砲塚A古墳群(15)は7基の古墳で構成されている。いずれも直径が7~10mの小規模な円墳である^⑭。浜塚古墳(7)はかつて高さ0.5mの円墳が所在していたとされている^⑮が、現在は住宅が建っている。矢塚古墳群(5)は、29基の古墳が確認されている^⑯。平成30年度に16基の調査が行われ、14基で墓壙を確認し、うち7基から土師器の壺や高杯、須恵器の高杯や長頸壺などが出土している^⑰。

古代・中世 鉄砲塚遺跡では今回11世紀と考えられる土師器が出土した。他、上ノ山遺跡(2)では、平安時代の掘立柱建物2棟と鎌倉時代の掘立柱建物3棟や土坑などが確認されている。出土遺物は、土師器の皿、鍋、山皿、山茶碗があり、鎌倉時代後半に位置づけられている^⑱。平内山中世墓(17)では、常滑焼、山茶碗片、五輪塔が確認されているが、常滑焼は平安時代末から鎌倉期のものと考えられる^⑲。

【注】

- ①④⑥⑧⑩～⑫『三重県 玉城町史』上巻 玉城町 1995
- ②⑤⑦⑨『第21回貯蔵祭 玉城町南部の遺跡』奈良学園大学考古学研究会 1982
- ③⑩『上地山遺跡発掘調査報告書』玉城町文化財調査報告Ⅱ 玉城町教育委員会 1985
- ⑨⑩『上の山遺跡発掘調査報告書』三重県埋蔵文化財調査報告103 三重県埋蔵文化財センター 1992
- ⑪『平成30年度三重県埋蔵文化財年報』三重県埋蔵文化財センター 2019



第1図 遺跡位置図(1:25,000) 国土地理院「伊勢」「国東山」より作成

1 鉄砲塚遺跡	8 浜塚A遺跡	15 鉄砲塚A古墳群
2 上ノ山遺跡	9 上久保遺跡	16 下之垣内遺跡
3 矢野々遺跡	10 道小垣内遺跡	17 平内山中世墓
4 浜塚古墳	11 押野池しき遺跡	18 上地山遺跡
5 矢塚古墳群	12 寺起遺跡	19 杉山遺跡
6 そうられ塚遺跡	13 東村遺跡	20 狼谷遺跡
7 浜塚古墳	14 鉄砲塚B古墳群	21 明豆遺跡



第2図 調査区位図(1:2,000)「2017三重県共有デジタル地図(数値形図2500)(道路線1000)」より作成

III 基本層序と遺構

調査は、幅0.8~1.3m、途中マンホールを挟んだ南北2トレンチを合わせた延長44.3mの範囲で実施した。調査区幅が狭いに、東側には上水道管が通っており、西側も下水管が通っていたこともあって、限られた範囲での調査となった。

調査開始時点では、これらの水管位置を明確に把握していなかったため、当初は幅2mのトレンチを設定し(外トレンチ)、水道管位置を確認後、水道管部分を避けてその西側を調査区として設定した(内トレンチ)。上述の調査範囲は、この「内トレンチ」に対応している。

なお、土層断面図(第4図)は、原則として内トレンチの東側壁面を図化したが、現道のアスファルトと路床の部分は土層図作成時点では既に取り扱っていたので、外トレンチ東壁で補い、合成した。

1 基本層序

鉄砲塚遺跡では、調査範囲の全城において基本的に一連で堆積した土層を確認することができた。現道のアスファルト部分を含めて、基本層となるのは以下の5層である。

I層 現道舗装のアスファルトである。厚さは場所によって異なるものの、4~6cmである。

II層 造成土で現道の路床となる碎石層である。厚さは約32~36cmである。

III層 黒褐色土(5YR 2/1)で厚さは約28~32cmである。

IV層 黒褐色土(5YR 3/1)で粘土塊や礫が混じる層である。厚さは約12cm~28cmである。

V層 にぶい赤褐色のやや粘質土に小礫が混じる層で、地山である。

以上のうち、III・IV層は旧水田の耕作土であるとみられ、遺物の包含は認められなかった。

遺構検出は、V層上面で行った。検査面の標高は、調査区北端で約24.1m、南端で約24.5mである。土層図でみると、北トレンチ南端付近から南トレンチに向けて地山が僅かに高まり始めており、北から南にへと徐々に高まっていく地形だったとみられる。

2 遺構

今回の調査で検出した遺構は、溝2条と複数のPitである。

S D 1

調査区を横断する幅約0.2m、長さ1m以上の東西溝で、調査区外へのびる。検査面からの深さ約8cmの浅い溝であるが、上部は水田化に伴う削平を受けているとみられる。溝断面は箱形を呈し、埋土は黒褐色土であった。

東西の調査区壁面にささかたちで、土師器の皿(第5図1~2)が割れた状態で出土した。

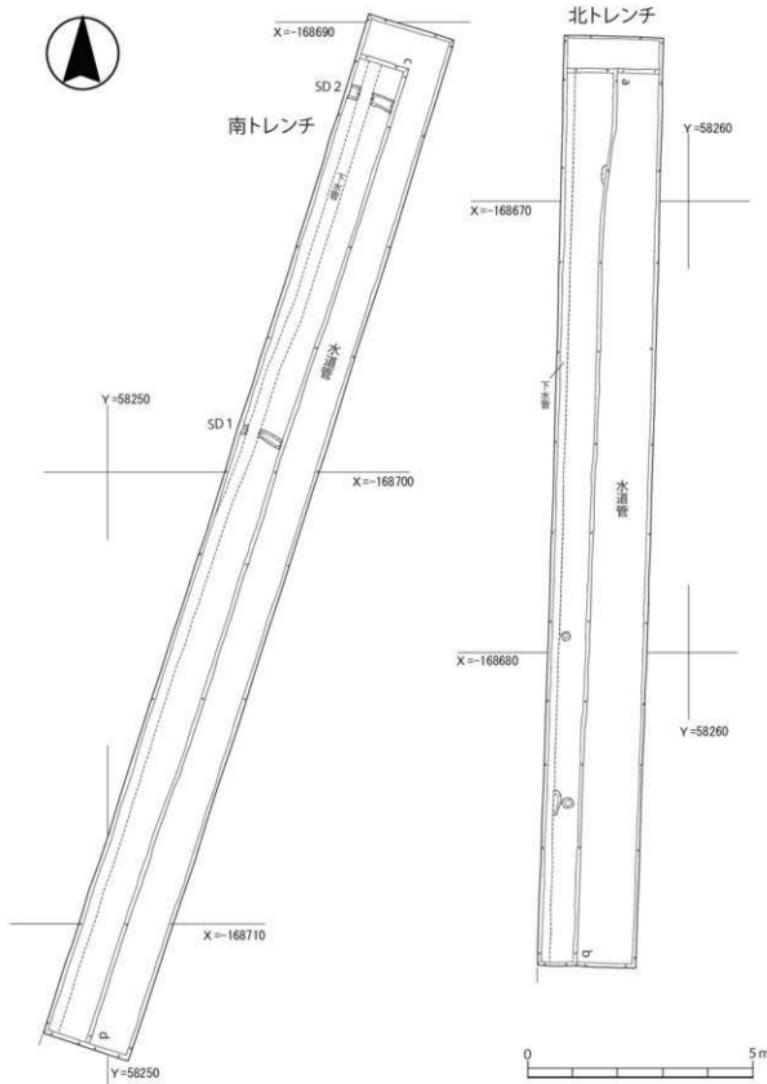
S D 2

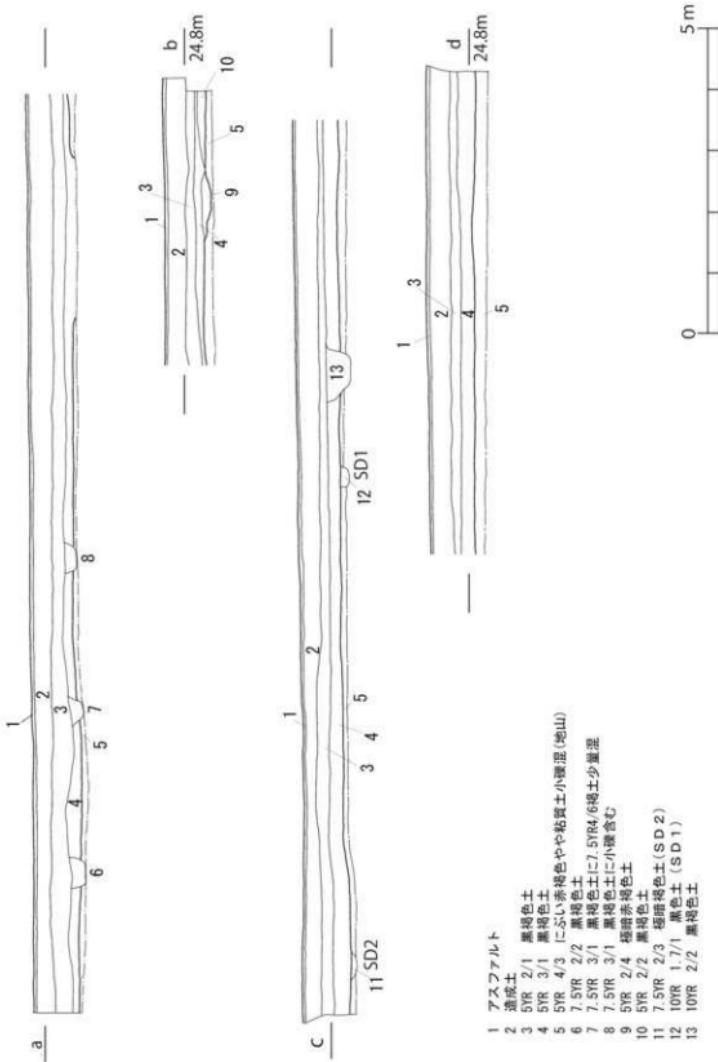
調査区を横断する幅約0.3m、長さ1m以上の東西溝で、調査区外へのびる。溝断面はが緩やかなU字形を呈し、検査面からの深さ約10cmの浅い溝であるが、上部は削平を受けているとみられ、本来はもう少し深かったとみられる。埋土は極暗褐色土で、遺物は認められなかった。

Pit

北トレンチで4基の小穴を検出した。深さは、浅いもので8cm、深いもので20cmであった。4基のうち2基は、形状から柱穴であった可能性がある。しかし、あまりに疎らで確認数が少なく、建物としてまとめるには至らなかった。

また、いずれからも、遺物を確認することはできなかった。





第4図 調査区土層図 (1:80)

第1表 造構一覧表

造構番号	性格	地区	形状・規模	出土遺物	備考
SD1	溝	SD 1	0.2m × 1m 以上	土師器 皿	調査区外へのびる
SD2	溝	SD 1	0.3m × 1m 以上	なし	調査区外へのびる

IV 遺 物

今回の調査で出土した遺物は、2点の土師器の杯が出土したのみである。いずれも、SD 1からの出土である。

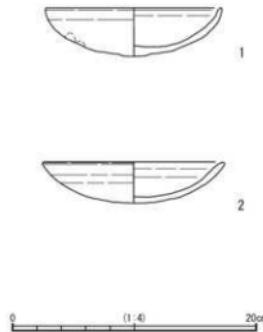
1は、丸底の底部から内溝して立ち上がり、口縁部をヨコナデして端部に内斜面をもつ。体部はユビオサエ・ナデにより調整されている。全体に厚みがあるが、特に底部は分厚いまま残している。色調は、にぶい橙色である。

2も、丸底の底部から内溝して立ち上がるが、口縁部は口縁内面へのヨコナデの影響でやや外上方に伸びている。口縁部外面はヨコナデで調整され、底部の方はユビオサエで調整されているようだが、摩滅が著しく、確認しづらい。色調は淡黄色である。

底部が調整不足で分厚く残るなど斎宮出土の一般的な土師器杯とは若干異なる部分もあるが、いずれの杯も斎宮跡土器編年の中期ないしは後期に相当するとみられ、11世紀頃のものと考えられる^①。

【註】

① 大川勝宏2019「斎宮跡発掘調査報告Ⅱ 柳原区画の調査出土遺物編」斎宮歴史博物館



第5図 出土遺物実測図（1：4）

第2表 出土遺物観察表

No.	実測番号	器種	出土位置	法量(cm)	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度
1	001-01	土師器 杯	SD 1	口径：14.4 cm 器高：4.0 cm	外：ヨコナデ、ユビオサエ 内：ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい橙 10YR6/4	5/12
2	001-02	土師器 杯	SD 1	口径：15.0 cm 器高：3.3 cm	外：ヨコナデ、ユビオサエ？ 内：ヨコナデ、ナデ	密	良	淡黄 2.5Y8/3	9/12

V 結語

今回確認できた遺構は、溝2条と若干のピットのみであった。このうち溝は、どちらも調査区外へのびていくもので、これらは7.6m離れているが、E 26° S ではほぼ平行して存在している。S D 1 から出土した2点の土師器杯は、いずれも11世紀頃のものと考えられる。溝の上部はとともに削平を受けていたため溝底近くが辛うじて残存しただけであり、このことを勘案すると、削平などによって調査時点では明らかにできなかつたが、こうした溝は他にも存在していた可能性がある。

さて、国東山系と田辺の丘陵の間を流れる外城田川は、国東山系を水源として伊勢湾に注ぐ河川で、勝田を含む現在の玉城町に属する村々はその上流部に位置する。国東山系の水量はあまり豊富ではなく、山麓周辺は溜池のため小河川を堰き止めることもあって、旱天が続くと水は干上がった。しかし、一旦大雨になると、河川の屈曲の多さ、川幅の狭小と多くの井堰の存在が排水を妨げ、たちどころに洪水となり、周辺の田畠や田丸の町に被害を及ぼしていくという。

そのような事情もあり、河川の水量だけでは必要な水が貯えられない流域の村々では、古くから溜池による用水の確保が図られてきた。特に江戸中期からの新田開発は、水の需要を増し、新池の造成や拡張のための重置などによる改修が行われていた。

鉄砲塚遺跡至近の押野池の築堤や周辺の拓田も、新田開発あるいは再開発が行われた結果と考えてよいだろう。

しかし、鉄砲塚遺跡を含む勝田地区は、さらに古くから水田が拓かれていたことが伺われる。

伊勢市に所在する光明寺に伝来されている「光明寺古文書」によれば、狩田（＝勝田）はすでに12世紀中葉の久寿元年（1154年）の段階で、治田の立券に関わる文書がある（文献1）。これは、鉄砲塚遺跡の溝の推定年代よりは若干後出するものの、当地が古くから水田開発が行われたことを窺がわせるものとして注目される。このことを踏まえると、鉄砲塚遺跡で確認された溝も、水田耕作に関する遺

構である可能性が浮上する。

中世以降も、嘉吉2（1442年）に荔田（＝勝田）に懸力（懸税）とする稻を負担する役田があった記録（文献2）や、寛正6（1465年）には内宮祠官荒木田氏二門家系の氏寺とされる田宮寺の所領のうち、刈田（＝勝田）分が北畠氏の一族衆であった岩内氏へ、原（玉城町原、多気町との境）分が同じく北畠氏一族衆の坂内氏に属する仲嶋出羽へ渡ったことが記述されるなど（文献3）、勝田の地には安定した水田が存在したことことが窺える。

今後、周辺の調査が進めば、これら文献にも照応するような、新たな知見が得られることも期待されよう。

文献1 『光明寺文書』（三重県2005『三重県史』資料編中世2 第2部光明寺関係 五八六）

定水財沽渡所領治田立券文事

合屯段者

在狩田村十三条七市九里十二坪從北二段長

久寿元年（1154年）十二月廿七日 紗弥（花押影）

瀧原宮宮掌内人（花押影）

両子相知橘いぬ

文献2 『氏経神事記』（神宮司序1940『大神宮叢書』第5前篇）

嘉吉2（1442年）九月十五日

懸税役田大畠在荔田邊

文献3 『氏経神事記』（神宮司序1940『大神宮叢書』第5前篇）

寛正6（1465年）十月廿九日、田宮寺領事、荔田分岩内殿狀、原分坂内殿仲嶋出羽方へ遺狀、

文献4 『勢陽五鉢遣響』10度会郡 自1ノ巻至9ノ巻（安岡親毅 1883年）原本 天保四（1833年）

田丸府ヨリ五丁西ニアリ城田郷ニ属ス正税千二百二十一石紀州田丸領ナリ 舊記ニ狩田ト載ス加里太ノ訓ナリ今加津多ト稱ス

参考文献

玉城町『三重県 玉城町史』上巻 1995

玉城町『三重県 玉城町史』下巻 1995

写 真 図 版

写真図版 1



調査前（北から）



調査区北トレンチ北側（北から）



調査区北トレンチ中央（北から）

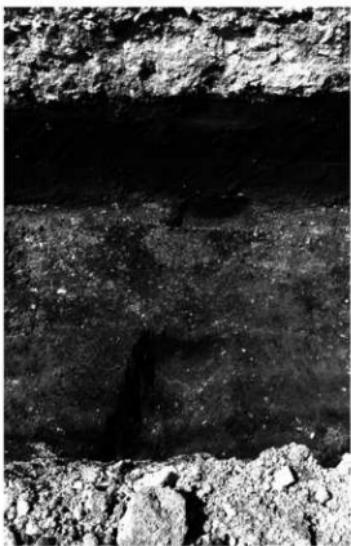


調査区北トレンチ南側（北から）

写真図版 3



調査前南トレンチ全景（南から）



SD 1 (東から)



1



出土遺物

2

報告書抄録

ふりがな	てっぽうづかいせきはつくつちょうさほうこく一わたらいぐんたまきちょうかつた一								
書名	鉄砲塚遺跡発掘調査報告—度会郡玉城町勝田—								
副書名									
巻次									
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告								
シリーズ番号	393								
編著者名	元座範子								
編集機関	三重県埋蔵文化財センター								
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596 (52) 1732								
発行年月	2021(令和3)年2月								
所収遺跡名	所在地		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
てっぽうづかいせき 鉄砲塚遺跡	三重県度会郡玉城 町勝田字鉄砲塚	461	372	34° 28' 41"	136° 37' 59"	20190917 ~ 20190920	46.2 m ²	高度水利 機能確保 基盤整備 事業(宮 川左岸地 区)	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項		
鉄砲塚遺跡	散布地	古代	溝	土師器、皿					
要約	鉄砲塚遺跡は、度会郡玉城町勝田の押野池の東側の平地に位置している。主な遺構は、溝が2条、Pit 4基を確認した。遺物は11世紀頃とみられる土師器杯が2点出土している。								

三重県埋蔵文化財調査報告 393

鉄砲塚遺跡発掘調査報告

一度会郡玉城町勝田一

2021（令和3）年2月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印 刷 有限会社ミフジ印刷